

2. 個別プロジェクト研究

1) ガバナンス部門(部門責任者)

常本照樹 (教授・憲法)

センターの部門に関連した研究活動およびそのアウトプットについて。

依然として国及び自治体によるアイヌ政策の作成・実施過程に関わっており、その中でこれまで学んできた政策形成及び立法過程に関わる諸理論の通用性、妥当性を検証している。2015年秋に大きな方針転換があり、冬から2016年の夏にかけて、それへの対応に大きなエネルギーが割かれた。その動きの中で、官僚がイニシアチブを取った政策転換の試み、それに抵抗する当事者団体の動きなど、極めて興味深い現象を観察することができ、またそれに止まらず、ステークホルダーとしてそれらに関わるという貴重な経験をすることができた。

自身の研究活動およびそのアウトプットについて。

日本において民族共生象徴空間の準備が進められているのと並行して、台湾でも新しい国立の原住民族博物館の計画が進められており、そのコンセプトや具体的プランニングをめぐって情報交換、意見交換を行うためのシンポジウム、ワークショップを複数回、行政実務担当者も交えて行った。また、アイヌ民族は一般に北方との関わりが重視されているが、南方との関係も論じられる傾向にある。そのようなことから、台湾で開催された南島国際会議で報告したほか、ニュージーランドを訪問し、マオリとの情報交換を進めた。

その他(教育活動ほか)

法科大学院における3年課程の憲法Ⅰ、Ⅱの授業、法学部の通年演習及び全学教育の日本国憲法の授業を担当したほか、兼務教員を務めるアイヌ・先住民研究センターでの市民向け公開講座「アイヌを学ぶ」の一部を担当した。

論文

論文標題	雑誌名	発行年	頁
憲法はアイヌ民族について何を語っているか	松井茂記編『スターバックスでラテを飲みながら憲法を考える』 (有斐閣)	2016	73-98

学会発表

発表課題	学会等名	年月日	発表場所
Toward Revitalization of Indigenous Ainu Culture: The Symbolic Space for Ethnic Harmony	2016 International Austronesian Conference	2016/11/27	台北